



CYBERDYNE REPORT #3



シトロンリサーチは、サイバー ダインが投資の公衆から隠してきた最も重要な文書を 露にします。

シトロンリサーチは、その 300 円の目標を再確認します。

この最近の報告では、シトロンリサーチがサイバー ダインによって行われた治験では HAL を使用している患者に単純な病院起重機システムを使う人よりも最低限良い効果しかないことを公開します。治験のレポートも HAL を利用する人々の中には 65% 以上がいくつかの有害事象をうけている。シトロンリサーチは、これは、なぜサイバー ダインが FDA に何提出していない理由、とさらになぜ HAL が日本やヨーロッパでわずかな販売を達成していない理由と考えています。この治験の動かぬ証拠がサイバー ダインの株が 300 円への道を下らないといけなさと考えています。

シトロンリサーチの最初の 2 つのレポートの説明では、サイバー ダイン (7779.T JP) の CEO によって誇張されたプロモーション努力にもかかわらず過去 4 年にわたって任意の意味のある収入や独自の技術を提供するしなかった。それよりも、シトロンリサーチはサイバー ダインの [\$2,250,000,000] 2181 億 円の時価総額は大幅遅れていることそのライバル会社 Rewalk と Ekso Bionics はそれぞれに 754 万と 億 670 万の時価総額キャップが示しています。

シトロンリサーチに最も不安だったのはサイバー ダインが FDA 承認タイムラインにすべての明確な情報開示を避けているです。シトロンリサーチはサイバー ダイン社は、FDA と通信を開示していない理由やどこでも収入を得られなかった理由を公開しません。

サイバー ダインが参照したくない治験です!

めったに議論が、シトロンリサーチはサイバー ダインが HAL 器具上の治験を実施したことに気づいていた。シトロンリサーチは、このリンクを介して治験に証拠を持っている。

Link to Report

https://dbcentre3.jmacct.med.or.jp/jmactr/App/JMACTRE02_04/JMACTRE02_04.aspx?kbn=3&seqno=3962

しかし、これらの治験の結果はサイバー ダインが投資家への言及はありません。

投資家が HAL ロボットの効果／無効を分かるようになれば、器具挿入の説明書うを読まないといけません

治験の結果は標準的なローテク歩行ホイストと比較して HAL を用いた患者で徒歩圏内の改善が 10% 未満であることしかありません。(注: 今回の限定でテストを徒歩 2 分でした。治験は、10 メートル未満の距離を行った。そのため、歩行能力の改善は、最大 1 メートルです。以上の可能性がメートル単位より、センチメートル単位で測定する方が良い。)

Link to Product Insert

<http://citronresearch.com/wp-content/uploads/2016/10/CyberdynePackageInsert.pdf>



“Trial results also show a **63.3% incidence of adverse physical outcome** from wearing the HAL”

サイバー ダインはこの治験を実施したためシトロンリサーチには本研究が可能な最大パフォーマンスに HAL を表示する意図されていたと仮定します。治験自体は非常に不審である、それは治験責任医師および患者には二重盲検法がなかったも欲目に弱かった。また、サンプルサイズには非常に小さかった。1つのコントロール群は 11 患者ともう一つのコントロール群は 13 例としかなかった。

サイバー ダインが製品を中心に作成の誇大宣伝のすべてについては、一般的な病院の機械装置や「脳の読書」能力ロボットよりあんまり良くではありません。

もっと厄介な試験の結果は HAL は身体に装着することによって装着者の悪影響の 63.3% の発生率を示します。身体に装着することによって装着者の傷害は、四肢痛、股関節、関節痛、紅斑、剥離皮膚の変形性関節痛、接触性皮膚炎 (電極を接触から燃焼)、耐摩耗性、背中痛み、転倒、挫傷、など。誰もそれを使用するの不思議ではないです。

製品がやっと動作し、決してシトロンリサーチの意見では、患者を危険な状態になるので、米国の FDA に「de novo」 申込書を提出してない理由は、その治験は承認を得られない状態です。

サイバー ダインが主張にもかかわらず彼らの外骨格が違いますが、FDA にはライバル会社に尻馬に乗るように、510 (k) の申込みが、FDA は承認を否定しているようです。

先週には、サイバー ダインの悪化しました。会社がアナリストや投資家に紛らわしい情報を提出の証明が示した。

動かぬ証拠

OCT 5th 2016

先週のプレスリリースにとってサイバー ダインが日本の脳卒中患者のためにHAL の治

http://www.cyberdyne.jp/english/company/PressReleases_detail.html?id=4883

し始めたばかりですか??? アナリストは数年前からHALは脳卒中患者における承認がされていますが、これまで治験やデータを提供することな位でした。アナリスト達は本当にどのくらい少ない情報を知っているはこの例によって示すです。

例えば、2014年には同社のIPO以来迫っていたも野村証券のアナリストはあたかも脳卒中治療については間も無くし始まる。

当時:

「以前考えた治療不可能な脳卒中患者の機能改善のための治療で下の下肢障害を持つ患者の再生医療実用化の段階に入っているそれ。これから、サイバー ダインがHALの日本での販売は福祉用を拡大して手順で2015年の第3四半期の経常利益に移動します」。

-- 2014年9月30日の野村証券のサイバー ダインのIPO。

そして、今:

12～18ヶ月間試用期間を信じた野村証券の注先週状態になります。もし、治験が2016年のときに開始したばかりなら、2018年まで終了もできません。それなら、何で2014年に「脳卒中患者治療ための実用的な使用の段階」と言ったこになったのでしょうか?



言うまでもなく、会社は自社製品の主な使用ケースは、2016年には145%前年同期比増収を想定してコンセンサスにも2017年には62%の収入成長あれば、信じられないほど現実的である。

結論を下す:

HAL ロボットはヨーロッパと日本で広く販売されていない理由があります。サイバーダインはその状態を米国 FDA にストレートの解答を与えてくれる理由もあります。すべての理由は自分の治験の結果に来る。コストが高いにもかかわらず HAL ロボットは典型的な病院ホイストより動作せず、HAL ロボットが患者に怪我の可能性が高いが付属しています。サイバーダインの株は 300 円まで取引されるとを考えています。

皆様の慎重な投資を。



Cautious Investing To All